

令和3年度 第2回山梨県スポーツ推進審議会  
会議録

1 日時 令和3年10月22日（金）午前10時00分～午前11時55分

2 場所 山梨県防災新館1階やまなしプラザ オープンスクエア

3 出席者

(1) 委員 11名

飯田忠子、井出仁、小俣宏記、川上琴美、小林美香、佐野夢加、  
仙洞田和男、土屋ひとみ、中村和彦、野呂瀬秀、萩原智子

(2) スポーツ振興局事務局 7名

スポーツ振興課長、スポーツ振興課総括課長補佐、スポーツ振興課主幹  
スポーツ振興課課長補佐3名、スポーツ振興課副主幹

4 傍聴者等の数

傍聴者 なし

報道機関 1社

5 会議次第

(1) 開会

(2) 会長・副会長の選任

(3) 会長あいさつ

(4) 議事

(5) その他

(6) 閉会

6 議事

[審議事項]

山梨県スポーツ推進計画の一部改定について (資料1、資料2、資料3)

7 議事の概要

(議長)

審議事項の「山梨県スポーツ推進計画の一部改定」について、事務局から説明をどうぞ。

(事務局)

「山梨県スポーツ推進計画の一部改定」について、資料1、資料2、資料3に基づき説明。

(議長)

事務局の説明が終わったが、何か意見、質問があればどうぞ。

(委員)

資料1のIの、過去1年間、運動スポーツを実施しなかった人の割合というところで、基本的なところを教えてくださいが、これは年齢的にどの人を対象とした割合なのか、どこかに記載があるのか。

また、運動、スポーツということで、どこまでがスポーツか。例えば、子供たちに、こういう質問用紙を書かせるときに、学校でちょっと運動したからこれはOKなのか。ちょっと分かりにくいところがあり、登山とかウォーキングもスポーツというような軽運動もスポーツとして考えても良いものか。

初歩的なところであるが教えてください。

(事務局)

今、委員からお話しのあった内容について、県のスポーツ推進計画においては、スポーツ基本法に基づく概念を踏襲しており、スポーツ基本法では、スポーツとは、心身の健全な発達、健康体力の保持等を目的とする活動とされている。具体的には、競技としてのスポーツだけではなく、健康維持や仲間づくりのための目的で行われるような散歩、ダンス、健康体操、ハイキング、サイクリングなども含んでいる。

体を動かして、心も体も喜ぶようなものは、法律の中でもスポーツという解釈をしている。

(委員)

割合を出すのに、子供から80歳代のお年寄りまで、同じ質問をしているのか。

(事務局)

毎年行っている県民のスポーツに関する意識活動調査というアンケート調査に基づいている。昨年は9月に実施したが、対象は18歳以上の県民で、県政モニターの方に御協力をいただいている。回答者数は337人で、男性が45%、女性が54%、年齢は10代から70代以上である。居住地等も県内各地、職業もさまざまであり、幅広い対象に対して、1年間にスポーツとか運動をしましたかという質問をして、未実施率を算出している。

(委員)

私は現場にいるので、現場の状況を少しお話させていただきたい。コロナの影響でスポーツへの参加率が、低くなってきてしまっている。本人が参加をしたくても家族に止められている方、コロナにかかったら困ると参加をためらっている方、コロナの影響で教室を中止していただくことで、足が遠のいてしまった、もう次に行くのをやめようと言って、参加されない方というパターンである。

昨年度はほとんど参加者がおらず、今年度については、令和元年度が100%だったとしたら75%ぐらいには、回復はしてきたが、今一番心配しているのは、今後の状況、来年度、実

際100%の活動ができるのか。万が一、コロナの第6波がきたところで、参加率がどうなるのか、来年どうしようかと悩んでいる。

この推進計画も見直しということなので、また原点に戻ったような気持ちで最初からやっっていこうかなと考えている。

あと、オリパラに関して、富士河口湖町において、来年9月にオリパラの影響というかお陰で、河口湖を中心にトライアスロンの大会が開催されることになったので、ぜひ見学に来ていただければと思う。

#### (事務局)

委員のおっしゃるとおり、今はコロナが落ち着いているが、世間では第6波を懸念している。私どもは、こういった時だから、感染対策をしっかりと行い、スポーツの力で心と体を健全にしていくということを、しっかり県民に根付かせていく最大のチャンスだと思っている。しっかりと感染対策をしながら、対応をしていきたい。

昨年度も、県ゆかりのトップアスリートの皆様の御協力により、家でも簡単に動けるような動画作成等、普及啓発をしているが、やはり世間では今も様々な心配がある。今後、コロナの状況を注視しながら、先ほど申し上げたスポーツの力を、しっかり県民にPRしていくような取り組みをしていきたいと思っている。

委員の皆様方それぞれの、専門的知識とか経験等を、ぜひ、この機会に教えていただいて、施策に反映していきたいと思っているので、ご意見をお願いしたい。

来年、河口湖でトライアスロンがあるとお話しがあったが、来年、県ではスポーツコミッションを立ち上げることであり、このスポーツコミッションでも、トライアスロンについても、ご支援をしていきたいと考えている。

#### (委員)

資料2の、22ページから「スポーツ関係団体」という言葉が多々入っており、それに応じて、35ページに、(3)のパラスポーツの活性化と記載されている。山梨県障害者スポーツ協会も、22ページの「スポーツ関係団体」に入っているという理解で良いか。

障害者スポーツ協会はパラスポーツの活性化だけに協力いただくのではなくて、様々なスポーツの場で、健常者と障害者が一緒にできる環境を作っていくことも大事だと思う。22ページ辺りの「スポーツ関係団体」の中に、山梨県障害者スポーツ協会がもし入っていない場合はぜひ入れていただきたい。オリパラの連携を図っていくことが、とても大事だと感じている。

もう一つ、日常生活のスポーツの実施率であるが、その定義がすごく難しく、もう一度定義づけをきちっとすることが大事だと思う。ウォーキングされていても、私はスポーツをやっていないという人が結構いるので、誤解があるのかなという気がする。

#### (事務局)

まず、関係団体については、22ページには全ての団体名を記載しきれていないが、22ページの下から二つ目の丸のところの、市町村や山梨県スポーツ推進委員協議会、総合型地域スポーツクラブ、県スポーツ協会等には、県障害者スポーツ協会も含んでいる。

そして25ページの、具体的な障害者向けの取り組みにおいて、これらの関係団体で協力してというところで、先ほど委員がおっしゃった山梨県障害者スポーツ協会等との連携も考えている。障害者だけの取り組みも大事だと思うが、健常者と障害者の共生という機会を、しっかりと充実させていきたいと思っている。25ページのオの②に、今申し上げた、共生社会の実現ということも記載した。

スポーツの定義づけについては、私が散歩をしていると、年齢層も幅広く、犬の散歩等も含めてかなりの方が、運動とか、或いは体を動かしている様子を良く目にする。また、家で簡単にできるトランポリン等の運動も含め、今年度の実施率の調査に当たっては、運動やスポーツの定義を丁寧に示したいと考えている。

今日お配りした資料2の43ページにも、スポーツの定義を記載してあるが、調査にあたっては、しっかり定義づけをして正しいデータの把握等に努めて、施策に活かして参りたい。

(委員)

私は障害者の方と接する機会がとても多くて、日本知的障害者水泳連盟でも活動しているが、山梨県内の障害者の方のスポーツ大会がとても少ない。知的障害のスイマーの皆さんも困っていて、記録を出さないと全国大会にいけないので、私自身、年に1回、12月に大会を開いている。健常者の大会であるが、そういうものを取っ払って、障害者の方にも参加していただけるような仕組みを作って、3年前から参加していただいている。

一緒プレーするという事は難しいかもしれないが、そういった場を提供していくということもすごく大事になってくるのかなと思っているし、オリパラがあって、より皆さんの理解が大きくなっていると思うので、ぜひご協力いただけたらと思う。

(議長)

ありがとうございます。

まさにそのとおりで、県の施策の中でも、今年度の重要課題で、障害者と健常者との共有を図っていくということは、県の方でも着々と進めているということを知った。また、現実的にこれから我々スポーツ推進委員の中でも手だてをしていく。

共生社会ということをやってきたのは、オリンピック、パラリンピックをきっかけということであるので、ぜひレガシーを大切にしながらやっていきたい。県の体制も、そちらの方は前向きに取り組んでいくと思う。

(委員)

私もスポーツ協会なので、加盟団体競技団体の方々と、その束ねというか、中心的に展開できる立場ということだと心得ている。その上で、今日拝見しているその一人一スポーツの取り組みとか、私どもが指定管理を受けながら施設をどう活用していただくかということ、あと関係団体の皆様と一緒にどういうことができるのかということで、新しい局面に入っているのかなと感じている。コロナの影響を受けて、いかにコロナと向き合いながらスポーツを進めていくか、非常に今厳しい状況である。指定管理施設の利用状況を見ても、利用されている方は、一昨年前に比べても50%ぐらいの水準にまでしか、戻っていないような状況である。

そうした中で、スポーツに取り込む機会をできるだけ多くするという意味で、私どもの施設を利用していただく、或いは関係団体の皆様と一緒にあって、また、競技団体の皆様のお力を借りながらスポーツを進める機会をいかに広めていくかというのは、今までのように皆様方よろしく願いますというだけでは、進まないのかなと思っている。皆様方のご意見もいただきながら、何か新しい展開を考えなければいけないと、痛感しているところである。

まだ具体的な取り組みが始められていないとはいうものの、今後ともスポーツ協会にいろいろご意見を賜ればと思う。

(委員)

資料2の24ページに戻りますが、エの「女性向けの取り組み」というところで、女性向けがあって男性向けがない。最近はその辺が取りざたされるようになってきていると思いますが。また、女性に人気のある「ヨガ等」とあるが、ここに「ヨガ」を特化して載せた根拠があれば教えていただきたい。

(事務局)

女性向けの取り組みをここに入れさせていただいたのは、お子様をお持ちの方は、子育てが中心となり、男性に比べ、運動したくても、なかなか運動する機会が少ないというようなお話を承知しているためである。

また、国のスポーツの指針等も参考にしながら記載したが、女性の中でも人気のあるヨガやピラティス等をきっかけにした普及啓発を図るという記載もあり、ヨガを一つの例として取り上げた。

ご意見いただければ、今後検討して参りたい。

(委員)

ダンスについてと言うと、私もオリンピック関係のダンスの強化コーチさせていただいているが、体操だったらやるけれども、ダンスはちょっとっていう声がある。特に地方では、「ダンスってちょっとなあ」と。スポーツ大学の学生たちには、それぞれ自分の種目を持っているが、ダンスとは、スポーツの基礎になる、トレーニングにもなるみたいな話をする。

「ヨガ」、「ピラティス」ということだが、実態をわからないで言葉を使うと危ないと思う。ヨガで体を壊して、健康体操をするというようなことになる方もいらっしゃる。ここの「ヨガ等」で、美容と健康みたいな話になってしまうのか。

私どもの法人で持っている附属幼稚園、小学校で言えば、今のママたちの方が運動していて、男性の方たちの方が運動できていないように思う。大学で、親子3世代で研修会をしますと言っても、3世代の祖父は少ない。祖母と、パパとママが大変多く参加なさるような時代になってきたと感じる。

(事務局)

貴重な御意見をいただきありがとうございます。

私どもも、安易に言葉を使うということはないようにしたいと思っており、他の皆様方から

も御助言いただければと思っている。

(委員)

私の考えを述べさせていただくが、今度のオリンピック、オリンピックのレガシーというのは、今まで私たちが、分けて考えていた健常者と障害者という形が、これからのスポーツでは、統合するということだと思う。健常者も障害者も同じ時間に同じ場所でできるようなスポーツ大会にしていったら、良いのではないかなと思っている。

その一つのアイデアとして、パラリンピックでは、障害者の程度によってクラス分けをしていた。それと同じような形で、同じ100メートル競争でも、健常者、障害者の123ぐらい、それから小学生も入ってくるという形でやれば、同じ100メートル競争でも、同じ場所で全部できる。時間はかかるかもしれないが、すべての人たちが男女問わず、全部同じ場所に集まって、観戦し、見るスポーツからするスポーツ全部を統合できるのではないかなと。

そして、喜びをお互いに共有していくようなものが、レクリエーションの中に入ってくるのではないかなと思っている。そういう形をとれば、見る人たちも観客も多くなるだろう。する人たちも、いろんな障害を理解することになるのではないかなと思っている。

この山梨県のスポーツ推進計画を見ると、すべてが分かれているが、山梨らしさがあまり見えてない。山梨らしさというものを展開するためには、レクリエーション的な発想の中で、統合スポーツ大会を提案したいと思っている。

(議長)

ありがとうございます。すばらしいご意見だと思う。

(委員)

4つほどお話ししたい。先ほどの調査も、広く県民に、運動スポーツを広めていくときに、スポーツとは、決して競技スポーツだけではないのだっていうことを、できれば、具体的に、こういうものもスポーツだよとお示しする。スポーツ庁のホームページを僕らも監修して作ったのですが、難しい話を簡単に話そう、スポーツ語源みたいのところ、ディスポートとか、デポルターレみたいところは、もともとスポーツって気晴らしなのだろうと、そこから始まって、文化として競技が出てきたというところを易しく書いた。そういうもの参考にしながら、ジョギングもウォーキングもスポーツだよと、県民が自分で明確に把握できるような記述があると、この運動スポーツ実施率というのは、要するにスポーツをしない人、運動しない人は少なくなっていくだろうし、実質率が上がってくると思う。

それから、2つ目であるが、コロナの話が出ているが、そんなに簡単には終わらないと思う。2回目のワクチンも2カ月3カ月経ったらどんどん抗体が落ちていくので、絶対に3回目を打たなければ、抗体は上がらない。4～5年続きそうである。

大きな感染というのはなくなるかもしれないが、人命に関わることなので、コロナに対応した、今までと違った運動スポーツのあり方が絶対必要になってくる。先ほど事務局が話したように、例えば、家の中でもできるような、運動とか体操を配信するときに配信の仕方として、見たい人が見るのではなくて、こういったものを積極的にいろいろなところで、活用すること

が非常に大事なかなと思うし、せっかく作ったものを、いろいろな方々、マスコミもどんどん利用すれば良いのかなと思う。

3つ目は、さっきから出ているネットワークというか、会長をはじめ、多くの競技団体の方とか、或いは、学校の中で運動スポーツの指導をされている方がいらっしゃるので、そういうその運動スポーツを大きくとらえるときに、ネットワークとか、できるだけ、自分のところのものをどんどん紹介していく。例えば、スポーツ推進委員会の方でやることを、レクリエーション協会さん等で宣伝する、学校でも宣伝するとか。それが当たり前のようなネットワーク化をすれば良いと思うし、その中で良いものがあったらどんどん真似をしてモデル化をしていくことが大事だと思う。

栄養士さん達の会議に行ってお話ししたが、運動スポーツにもものすごく興味を持っている。例えば、健康ということ考えたら、運動だけではなくて、食とか睡眠とか排泄とかあるわけだから、そういった関連の皆さんとも手を組んで、とにかく健康になるようにと。栄養士は、ただ食べれば良いと言っているわけではなく、運動しなければ駄目ですよと言っている。そういうところと組んでやっていくということも必要なのかなと思う。

4つ目、年齢の話が先ほどから出ているが、子供とか、ビジネスパーソン、女性の方、高齢者を含めて、スポーツ庁のスポーツ審議会でもよく議論されるが、それぞれ区切っているが、要するに、よりよい政策をするために、持ち越すってあるのですね。

高齢者の方がスポーツをやるかどうかは、意外と中高年、もっと前のビジネスパーソン、仕事をしているときとか、もっと言うと子供の時に、どういう経験をしているのか、どういう人がスポーツをずっとやっているのかという研究も進んでいて、スポ少や部活というのも一つの要因であるが、気持ちの面でいくと面白く楽しくのめり込むということ、この経験を好む人というのが、持ち越している。ここにいらっしゃる多くの方が子供のころ遊びほうけたと思うが、僕もそうですが、そういう経験をしていると運動が億劫じゃなくなる。

ただ、残念ながらだんだん遊びが衰退して行って、今の20代30代の方には遊ぶ経験がなかなかないから、運動スポーツを特別なものと考えて、部活に入らなければ駄目だと。そうではなくて、日常生活の中で自由に体を動かすということで、やはり子供って一番原点であるから、子供に面白く楽しく活動できるような、遊びとか、スポーツの面白い部分というのをどんどん、子供たちに展開していけばいいのかなと思っている。

ヴァンフォーレさんが今すごく頑張っていて、サッカーだけではなくて、いろいろな幼稚園、保育園に回って、そういった遊びを展開しようという取り組みをしている。ヴァンフォーレさんやクイーンビーズさんのような方々が行くと、すごく子供たちも盛り上がるわけです。

委員も言っていたが、山梨県らしいレガシーを残してほしいなと思う。良い部分がいっぱいあって、自然もそうだし、もちろんサイクルスポーツもそうであり、そういったところと観光とか、いろいろな県の施策等を一体化しながらやっていく。スポーツだけに特化すると進まないところがあるので、ぜひ、県全体で、県民全体でスポーツをもっともっと推進できる、そういう体制を作っていただければと思う。

(事務局)

御意見いただきありがとうございます。

スポーツの定義については、先ほども、他の委員の方からも御助言いただいたので、確認させていただきたい。

配信については、専門の委員の皆様にも、効果的な方法を教えていただきながら、事業を進めたいと考えている。

ネットワークについては、委員の中には、医療的な側面をお持ちの先生もいらっしゃる、今日は御欠席であるが、栄養士さんとの繋がりといった部分等の新しい知見を、時代の変化の中で取り入れていきたいと思っている。

それから、スポーツは、やはり面白いもの。子供の頃は、時間を忘れて遊んでいるので、それが運動スポーツだと思っている。若者たちの価値感をもう一度把握する中で、プロスポーツ、或いは、ここにいらっしゃるオリンピックの皆様方に引き続きご協力いただきながら、山梨として輝くような、子供たちをワクワクするような、その未来に繋がるように、スポーツを通じてしっかりと、人材育成していければと思っている。

先ほどの最後、山梨らしいというところは、人も宝物だと思うし、山梨は自然環境も魅力があるところ。細かくは計画の中には書き込んではいないが、具体的な施策にあたっては、山梨に生まれて山梨で運動スポーツができて、そして、生きていて良かったというようなものを目指して参りたいと思う。

引き続きの御指導御助言をいただければと思っている。

#### (委員)

中学校の現場で言うと、よく言われているのが運動の二極化ということで、そういう状況が、どこの学校にもある。運動部離れをしているというの、統計的にも出ている。ただその裏には、生徒の減少ももちろんあり、それによって、削減されていることもあると感じている。さらに、生徒が減ることで、合同チームを作らないと大会に出られないような現状もある。特に野球はととも減少していて、大変な状況にもなっているのが現実である。

コロナのことで言えば、昨年度は休業が続いて、なかなか部活もできなかった。学校に来ない期間が2カ月ぐらい続いて、不登校になり休みがちになる子供たちも少なからずいた。今年度は、8月6日から山梨県から拡大防止に向けた協力要請が出て、一切会議もできず部活もできず、何もできなかった。さらに、8月20日から、蔓延防止が出て、その中でも1時間半は部活しても良いよというような状況にはなったが、運動する機会が本当に少なくなってしまったというのは、現状である。今、回復してやっちはいるが、これから先ウィズコロナの中で、部活動についても、それから大会についても、いろいろ工夫していきながら、共存していくことが必要なのだなということは、いろんな方の話を聞いて思った。

それから、オリパラに関しては、県でもオリパラの推進事業をしていただいて、それに伴って、講演をしてもらった学校もあり、非常に良かったと思う。教科書でも、保健体育の中でも、そういったことが取り上げられていて、子供たちがそれに対して触れたり、興味を持ったりということは、機会としてはあったかなと思う。そういった触れ合う機会が、オリパラ推進事業がなくなっても、普段の学校の中に、いつでもオリンピックやパラリンピックのいろんな競技と触れ合う場面が今後も必要かなということは、話を聞いていて思ったので、そのような工夫もしていきたい。

(事務局)

私どもは、教育委員会とも部活動等で連携しながら、スポーツの推進はこれまでもやってきており、引き続き子供たちが、スポーツを通じて夢を描けるような取り組みを、スポーツ振興局と教育委員会、或いは現場の教育委員会の皆様方等と連携しながらやって参りたいと思っている。

それから、オリパラの関係であるが、オリパラの魅力を人から人へと伝えることができるので、そういった事業展開も、我々は計画に基づいてさせていただきたいと思う。

それに限らず、特にコロナで今心が沈んでいる方も多いと思うので、今こそスポーツを通じて、アスリートの皆様のその輝く姿だけでなく、そこに至るまでの、経験とかそういったものも、ぜひ引き出していただけるような取り組みも、今後また御相談させていただければと思っている。

(委員)

私どもの団体は、中央市農村公園、現在はY S K e - c o mシルクパークという愛称になり、皆様に支援していただきながら、運営維持をしている。

コロナ禍であり、屋外ということで、1カ月ほど利用停止という期間があったが、サッカー協会、中央市のグランドゴルフ協会とも連携を図りながら、多くの方々に利用していただき、年間の目標、利用団体数は達成しているところである。そのような中ではあったが、「食」という話が出たので、一つご紹介させていただきたい。

敷地内に、シルクハウスがあり、ここでは県の皆様方のご支援のおかげで食事をとることができ、子供たちが朝来て、朝食をとってこなかった子が、そのシルクハウスで軽食もできるようになったので、そういった意味でも少しお役に立てているかなと思う。その中には、医務室があったりとか、熱中症対策で緊急対応が、応急処置ができるような施設もある。

「食」ということで、子供たちの、心と体の健康という意味でも、非常に大切な施設になったかなと感じている。私どもの団体は、スポーツを支援する団体ということで、各種競技団体様とも連携を図りながら、環境づくりをしていきながら地域活性を目指している。

皆様方の話を伺う中で、一番感じたことは、各種競技団体と連携を図るという中で、私どもが深く考えていく必要があるのは、障害者のところかなと思っている。私どものグランドは人工芝なので、何か障害者協会の方とも連携を図って、今後検討していきたい。

(事務局)

委員のお話しにあった、障害者も含めて食とスポーツという新しい観点も、今後は大切に考えながら、施策を進めて参りたい。

(委員)

まず、健常者と障害者が同じ場所で大会ができるといいというご意見をいただいたが、山梨県高校総体においては、特別支援の学校も同時に参加して、例えば陸上競技に支援学校の生徒と一緒に大会に出ているというようなことはやらせていただいている。今後さらに、それを工夫していければ良いと思う。

それから、ウィズコロナでは、大会ガイドラインを高体連でも作り、それに基づいて大会を運営している。先月の理事会で、大会機会をなるべく失わないようにということで、PCR検査の補助を、高体連の方でしようということで、そういう支援を制度化させていただいた。大会直前に、家族が濃厚接触者になったり接触者になると、大会に参加できないということがあったので、早め早めに、PCR検査等で陰性確認して大会に出られるという、そういう状況を作らせていただいた。

コロナのことが結構、影響を及ぼしていると思うが、コロナの収束に向けて、今、充電している、すごく大事な時期じゃないかなと思っている。この間テレビで、飲食店がこのときじゃないと店を改修できないから、しっかり改修して次に備えていくと言っており、コロナ終息に向けて、今は充電して、課題解決に向けた準備をしているときだなという感じを受けた。

そう思ったところで、学校体育という我々の範疇からすると、体力低下がずっと叫ばれている。例えば、道具がそろえば、グローブ、ボールがそこがあれば、キャッチボールをし始めるし、ラケットとボール等があれば、そこで運動が始まるし、そういった環境整備もすごく大事かなと思っている。プールの維持管理ということでも、泳げる力はとても大事だと思う。防災を考えても、着衣泳も含めて子供たちの安全安心、また将来に向けての防災対策という部分でも、学校でないとなかなか泳ぐ機会がないと思うので、そういう環境整備もとても必要だと思っている。

それから、いじめを受けて自殺を考えたという子が、学校に行けるようになったら何をしたいですかと言われたら、「学校で部活したいです。」という番組を見た。やはり、部活動はとても大事だと思うし、経済的にも苦しい家庭もあるので、公教育の中でできるということも、すごく大事だと思っている。指導者の確保とか、環境の整備等、様々な課題があるが、この充電期間に収束したら爆発する、そういう準備を整えることができたかなと思う。

それから、もう1点、学校を離れたスポーツ活動になった時には、今、小瀬の競技場でナイターの練習時間を設けてもらったり、公園内にバスケットのリングがあったり、バレーのコートがあったり、そういった公園内にスポーツシーンが生まれる、そういう、環境整備も必要ではないかということを感じている。

(議長)

今お話があったように、そこに行ったらスポーツがあった、町にスポーツがあった。これは通りがかった方たちも、県外からくると、ボールが飛んでいると、何か元気が出るとか、その町にスポーツがあったというような、もっともっと地域に寄り添うスポーツが大事だと、委員のお話を聞いて思った。

ぜひ、またこれから私たちもいろいろと施策を、山梨らしいものを作って、県の方のご指導いただきながらやっていければいいかなと思った。

(委員)

良い話の後で個別の話で恐縮なのですが、東京オリパラのサイクルスポーツ文化の定着の中で、私どもは境川自転車競技場を所有している。県からも多額の支援、改修をいただいて本当にありがとうございます。

自転車は、いきなり公道に出るということはないわけで、初心者が公道で練習するのは非常に危険なので、どこで練習したらいいのかとなる。実は、境川は個人でトレーニングする絶好の場所であり、仲間でもトレーニングができる場所であると自負をしており、現にそういうお客さんも増えている。特に女性には、非常に多くの方に境川を使っていたらいい。

実際に道志のコースを使うということであるが、それも大切でそれが究極かもしれないが、県にある施設、数少ない競技施設であるので、境川が使えるということをご記憶にとどめていただければと思う。

(議長)

その他、言い残したことなどがあれば、ここでぜひ発言いただきたい。これから、推進計画も一部改定されるので、その前に県の方に提案していただくと、また反映されると思っている。

(委員)

いろいろな方のいろいろな意見を聞いて、なるほどと思う話がたくさんあって、すごく良い意見がいっぱい出たなと思っている。ぜひこの意見が活かせるような、そんな取り組みができたらなと思った。

話は戻るが、女性向けの取り組みのところで、委員からも話があったように、例えば、家族で参加できるようなものを入れるのも良いのかなと思う。ヨガとかそういった一つのものを入れ込むよりも、女性とすると、子供と一緒にできたら良いなと普段の生活の中ですごく感じるところもあるので、推進計画の文面を、そういう感じにしたら良いのではないかと思った。

実際に私自身も教室を開く中で、今年はコロナのこともあったので、小さいお子さんたちの教室はすべて親子で一緒にするというをやってきた。大体参加されるのはお父さんが多かった。お母さんよりもお父さんと一緒に日曜日に来て、一緒にかけっこしたり、運動遊びをしたりして、家でできることもこんなことがありますよということを、皆さんと一緒に楽しむ形でできた。家族で、皆さんで楽しめるというような雰囲気のものも、女性向けというところに入れてもいいのかなと思う。

あと公園内にそのスポーツがあるはとても良いと思う。やはり気持ちです。やりたいと思ったときに、手ごろなところに何かあると、お金もかからず、気軽に行ってできる、そこから仲間が増えていくこともあると思うので、ぜひ取り組みに入れていただくと良いと思う。

(委員)

障害者の部分で意見がある。障害と認定された人たちは良いのだが、発達障害を持っている子供たちが、認定もされない。私はよく特別支援の子ども達と運動しているが、その子供たちは守られている。でも守られていない子供たちが、クラスには何人もいたりする。

私たちは、みんなが共生っていうのはどう考えるのか、そして山梨のその特色を考えていけないといけない。

(議長)

ありがとうございます。

関連で、スポーツに実際に関わっている皆さんが今日集まっているわけで、その立場で発信をしていくことが、私はこの会の目的だと思っている。

私はスポーツ推進委員であるが、私たちは高齢化社会に対して、いわゆる高齢者医療の削減ということで、地域に寄り添って、公民館を回って、出前教室をして、そこでお年寄りが足を遠くまで運ばなくても、身近なところにスポーツがあると、スポーツだけではなくて、そこにはお茶を飲んだり、騒いだり、話をしたりコミュニケーションを作って、我々スポーツ推進委員も、末端に寄り添ってやる活動を、今進めている。

皆さんそれぞれ分野があるので、スポーツのプロはプロの世界がある。プロ世界でどんどん発信していただくと。レクはレクで、レクリエーション的には楽しいスポーツをやっていく。子供たちの育成は、保育園からだと思っているので、そういう小さい頃からのスポーツをもっと推進していく。総合的に考えると、スポーツ環境をどのように構築していくかと思っているので、今日も委員の皆さんのご意見をいただいて、きっと、机上で計画を作成する県の方にとっては良い会だったと思う。

(事務局)

会長、ありがとうございます。

私どもは、国にある計画を参考にして、県の計画を作成している。山梨らしさという観点について皆様方から御意見をいただいたので、山梨らしさとスポーツは何かというところを、もう一度考える。

今日いただいた御意見を踏まえ、次回の審議会において、引き続き改定案を御審議いただきたいと思っている。

(議長)

ありがとうございました。皆さん、意見は出尽くしたでしょうか。

本日は長時間にわたり、お疲れ様でした。

以上で本日の議事を終了する。

(以上)